

長野県市長会 11 月定例会 会議録

令和 2 年 11 月 20 日 (金) 13:45～14:40

ホテル国際 21 3 階 千歳

1 開 会

(前島事務局次長)

ただ今から、長野県市長会 11 月定例会を開会いたします。はじめに、加藤会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(加藤会長)

長野県市長会 11 月定例会を開催しましたところ、各市長さん方におかれましては、12 月市議会定例会、また、来年度予算編成など、大変ご多忙の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、先月 18 日に投開票のありました飯田市長選挙におきまして初当選を果たされました佐藤飯田市長さん、また、翌週 25 日に投開票のありました千曲市長選挙におきまして初当選されました小川市長さん、ご当選、誠にめでとございます。このコロナ禍における難局の突破に向けて市長会として連携いたしまして共に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

去る 8 月 20 日、岡谷市におきまして、第 147 回の市長会総会を開催いたしました。その折には、今井岡谷市長さんをはじめといたしまして、職員の皆様には大変お世話になったところでございます。本当にありがとうございます。

その総会におきましてご採択いただきました要望事項につきましては、9 月 14 日、牛越副会長さんとともに県知事並びに県議会議長に陳情・要望をしたところでございます。

また、自民党、公明党、立憲民主党の県連へも事務局で要望書を提出したところでございます。

さらに、国に対する要望につきましては、福井県坂井市の事務局より書面表決で開催されました第 177 回北信越市長会総会を経まして、先週開催されました全国市長会理事・評議員合同会議で決定されましたので、重点提言などおいたしまして国に提出されることとなりますので、ご報告をいたすものでございます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大と戦後最大の経済の落ち込みの中、9 月に菅内閣が誕生したところでございます。臨時国会における菅総理の所信表明演説におきましては、新型コロナウイルス対策と経済の両立、行政のデジタル化、グリーン社会の実現、また、観光や農業改革による地方の活性化についても言及があったところでございます。年内にも一部政策プランが策定されるとのことでございますが、大いに期待をしたいと思っております。

アメリカにおきましては、次期大統領の選出と来年1月の政権移行に向けて動き始めておりますが、それとともに、国際情勢もめまぐるしく揺れ動き始めるものと思います。

また、新型コロナウイルスの第3波によりまして、再び感染者が増加していることなどを背景に、社会経済情勢につきましても十分に先を見通せない状況でございます。

今後とも、様々な動向を注視いたしまして、私たち基礎自治体を預かるものとして、加速する時代の流れに乗り遅れないよう、19市が一丸となりまして、声を上げるべきときは、しっかりと声を上げることが重要であると考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

本日の定例会でございますが、来年度の各市の負担金などについてご協議いただくほか、県からの施策説明を受ける予定でございます。限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

知事との懇談会では、阿部知事さんが全国知事会行事と重なったことによりまして、小岩副知事さんにご出席いただく懇談となります。市長会といたしまして、市の意見を県にしっかりお伝えいただく良い機会でございますので、部会長さんはもちろんのこと、各市長の皆さんから活発なご意見をいただくようお願い申し上げます。

県内各市の市長が一堂に会しましての今年の会議は、本日が最後となるわけでございます。少し早い感でございますが、この1年、市長会の活動にご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝を申し上げまして、開会の挨拶といたします。どうもありがとうございます。

(前島事務局次長)

ありがとうございました。

3 当選市長紹介

(前島事務局次長)

続きまして、本年8月開催の長野県市長会総会以降にご当選されました市長様をご紹介します。恐れ入りますが、その場で一言ご挨拶を頂戴したいと存じます。

10月18日投開票の飯田市長選挙におきまして、初当選を果たされました佐藤健飯田市長様でございます。

(佐藤飯田市長)

ただ今ご紹介いただきました飯田市長の佐藤健でございます。副市長の時代からお世話になっている先輩市長さんが大勢いらっしゃいますが、改めまして、今後、どうぞよろしく願います。ありがとうございます。

(前島事務局次長)

ありがとうございました。

続きまして、10月25日投開票の千曲市長選挙におきまして初当選されました小川修一
千曲市長様でございます。

(小川千曲市長)

ただ今ご紹介にあずかりました千曲市長の小川修一でございます。今月の11日に就任
いたしました。ちょうど今日で10日たちます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

(前島事務局次長)

ありがとうございました。

4 会議事項

(前島事務局次長)

本日の定例会でございますが、会議録をホームページ上で公開する会議としております。
事務局において作成いたしました会議録を出席者の皆様にご確認いただいた後、ホームペ
ージに掲載させていただきますので、ご承知おき願います。

それでは、会議に入ります。会議の進行は、慣例によりまして加藤会長にお願いいたし
ます。

(1) 会務報告

(加藤会長)

はい。それでは、早速会議に入りたいと思います。

はじめに、(1)「会務報告」については、お手元の資料1のとおりでございますが、補
足がありましたら事務局長からご説明をお願いいたします。

(青木事務局長)

はい、補足につきましては、特にございませぬ。どうぞよろしくお願いいし上げます。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。

それでは、この「会務報告」につきましては、承認することよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(加藤会長)

ありがとうございます。それでは、承認することといたします。

(2) 協議事項

ア 長野県市長会部会報告について

(加藤会長)

続きまして、(2)の「協議事項」に入りたいと思います。

はじめに、アの「長野県市長会部会報告について」でございますが、本来ですと各部長さんから概要をご説明いただくところでございますが、時間の都合上、お手元に配付してございます資料2をもって報告に代えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

全体を通しまして何かご意見がございましたら、お願いしたいと思います。

(「なし」の声あり)

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

イ 「知事との懇談会」について

(加藤会長)

次に、イの「知事との懇談会」について、事務局長からご説明をお願いしたいと思います。

(青木事務局長)

はい、それでは、資料3からご説明をさせていただきたいと思っております。

それと、資料2の先ほどの部会報告でございますが、末尾に少し記載させていただいておりますが、部会を開催されました概要につきましては、別途、電子メールで会議録を送信させていただいております。また後ほどご確認いただきたいと思いますと思っておりますが、非常に大部でございますので、紙ベースでお配りすることは、時節柄、差し控えさせていただいております。どうぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、資料3をご確認いただきたいと思います。この定例会の後に開催されます知事との懇談会の次第により、ご説明をさせていただきたいと思っております。

3時から2時間の予定でございます。このお部屋は「千歳」でございますが、すみません、隣の部屋で開催させていただきたいと思っております。

3でございます。知事挨拶でございます。先ほど会長からご挨拶がございましたが、知事は、今日、欠席でございますが、ビデオメッセージを預かってございます。そちらをご覧いただく予定でございます。

4で、本来は「提案・要望及び意見交換」でございますが、(1)の「新型コロナウイルス

ス感染症への対応について」以下「気候変動対策の推進について」までの5点となっております。それぞれの部会長様にご提案いただき、その後に意見交換をさせていただく形を取らせていただきたいと思います。

なお、(3)のDX・デジタル化の推進につきましては、総代の三木市長さんに部会を代表してご提案いただく予定でございます。内容につきましては、この後の知事との懇談会においてご論議いただくわけでございますので、説明は、省略をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。

ただ今の事務局長の説明に対しまして、皆様からご意見、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

(「なし」の声あり)

(加藤会長)

よろしいでしょうか。それでは、知事との懇談会につきましては、事務局長の説明のとおり決定したいと思いますので、お願いします。

ウ 令和3年度長野県市長会各市負担金について

(加藤会長)

次に、ウの「令和3年度長野県市長会各市負担金について」を事務局長からご説明をお願いいたします。

(青木事務局長)

はい、それでは、資料4をご覧くださいと思います。令和3年度、来年度の長野県市長会の各市負担金でございます。

1番の「経過」について若干ご説明をさせていただきたいと思います。

そこにごございますように、各市の負担金総額につきましては、平成9年度から26年度までの18年間は2,058万6,000円で据置きということでさせていただいてきたところでございますが、その2行目以降にごございますように、市町村振興協会からの運営の助成や事務局内の経費節減等によりまして繰越金が相当額になったことを受けまして、平成27年度から当初3年間の予定で3.3パーセント減の1,991万4,000円に減額をさせていただきました。その後、3年経過後につきましても、その都度、再検討をなされまして、令和元年度までの5年間は、同額で推移をしてきたところでございます。

今年度でございますが、令和2年度につきましては、令和元年の東日本台風により各市に甚大な被害が発生したこと等を鑑み、また、今後も一層の経費節減に努めるという前提の下に、令和2年度から令和4年度までの3年間につきまして更に2.1パーセント減額いたしまして、1,950万円ということで現在に進んでいるところでございます。令和5年度以降につきましては、再検討を行うということをご了承いただいているところでございます。

その結果、2番でございますが、各市の負担金額は、もう1枚おめくりいただきまして、私どもの各市の負担金につきましては、均等割りを3分の1、人口割を3分の2ということで、この人口につきましては、10月1日現在の人口を基に積算をさせていただいているところでございます。

計の欄をご覧いただきたいと思えます。それぞれご負担いただくわけでございますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。私ども事務局といたしましては、お預かりをしたお金を大事に使わせていただきたいと思っておるところでございます。

説明は、以上でございます。よろしくお願ひいたします。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。事務局で大変ご苦勞、ご努力いただいているところでございます。

これにつきまして、皆さんからご意見、ご質問はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

それでは、令和3年度長野県市長会各市負担金につきましては、事務局長の説明のとおりとすることにしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。

以上をもちまして協議事項を終わりたいと思えます。

(3) 報告事項

ア 専決処分について

イ 市長会から選出する各種団体等の役職について

ウ 「第 20 回県と市町村との協議の場」について

エ 令和 3 年度市長会会議開催予定について

(加藤会長)

それでは、(3)の「報告事項」といたしまして「ア、専決処分について」「イ、市長会から選出する各種団体等の役職について」「ウ、第 20 回県と市町村との協議の場について」「エ、令和 3 年度市長会会議開催予定について」を一括して事務局長からご説明をお願いしたいと思います。

(青木事務局長)

はい、それでは、報告事項ということで、最初に専決処分のご報告をさせていただきます。資料 5 をご覧いただきたいと思います。

令和 2 年度の一般会計歳入歳出補正予算書(第 1 号)でございます。おめくりいただきまして、専決をさせていただいたものの報告になってございます。

更に 1 枚おめくりいただきまして、内容を簡潔にご説明させていただきたいと思います。

上の段の歳入の部でございます。3 款交付金の所です。2 項全国市長会交付金でございますが、補正額が 40 万円でございます。これにつきましては、全国市長会からの 7 月豪雨に際しましての災害見舞金となっております。

また、雑収入の所でございますが、補正額が 10 万円ございまして、これは、第一生命保険株式会社からの復興支援活動に対する寄附金でございます。合わせまして、歳入の部といたしまして 50 万円を補正させていただいたものでございます。

一方、歳出の部でございますが、災害見舞金ということで、災害に遭われました 4 市に対しまして見舞金を差し上げてございます。補正額全体で 50 万円でございますが、4 市でございますので 12 万 5,000 円ずつということでございます。

ちなみに、松本市さん、飯田市さん、伊那市さん、安曇野市さんということで対応させていただいたところでございます。それのご報告でございます。

以上、補正予算の第 1 号ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、資料 6 でございます。

市長会から選出をいたします各種団体等の役職についてでございます。毎定例会、総会ごとに何らかの形でこのような役職についてご報告あるいは協議をさせていただいているところでございます。今回は、急施を要することから専決をさせていただいた内容でございます。各市長さん方のご理解をいただいたところでございます。

まず、1 番でございます。

長野県市町村職員共済組合会議員でございます。任期は 2 年でございます。監事 1 名、議員 1 名ということでございまして、幹事には金子諏訪市長様、それから議員には、小泉小諸市長様にそれぞれご就任をお願いするものでございます。これにつきましては、従来より慣例によりまして、市長就任順によりましてお願いさせていただいているところで

ざいます。

それから、大きな2番でございます。長野県から要請されたものでございます。

まず、会長にご出席いただくものとしたしましては、長野県総合計画審議会の委員がでございます。任期につきましては、委嘱の日から2年でございます。引き続き加藤会長にお願いをするものでございます。

それから、総務文教部会関連で長野県スポーツ推進審議会の委員がでございます。これにつきましては、残任期間でございますが、白鳥伊那市長さんをお願いをさせていただくものでございます。

それから、部会所属によらないものということで、これにつきましては、推薦地域が限定をされているものでございまして、長野県公営企業経営審議会の委員でございます。長野県企業局から小川千曲市長さんをご指名でございますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思っております。任期につきましては、残任期間とさせていただいているものでございます。

それから、少し早口で大変恐縮でございますが、資料7をご覧いただきたいと思っております。資料に少し不足があるかもしれませんが、口頭でご説明しますことを、お許しを頂戴したいと思っております。

第20回の「県と市町村との協議の場」における確認事項のご報告でございます。これは、令和2年10月26日に開催をされたものでございまして、県と市長会、町村会での確認事項となっております。

一番上にごございます意見交換テーマでございますが、2点でございます。

1点目は、気候変動対策の推進についての意見交換がなされてございます。少し読みますと「県と市町村による研究会の開催等により、取組の方向性を共有しながら、オール長野県で気候変動対策を推進していく」ということ、それから「2050年のゼロカーボン実現を目指し、県と市町村がともに取り組む具体的な施策を、本年度中に改訂する県環境エネルギー戦略に反映する」、この2点について気候変動対策の推進ということで確認がされているところでございます。

なお、この気候変動対策につきましては、この後に開かれます知事との懇談会の中でも議題として取り上げさせていただいてございますので、その中で意見交換をお願いできればと考えてございます。

それから2点目です。「DX戦略の推進について」でございます。Society5.0時代の魅力ある長野県の実現に向け、スマート自治体推進に係る具体的な取組を県・市町村が連携して進めるとともに、スマート自治体以外の様々な県民生活分野に係る取組についても、先端技術活用推進協議会へのワーキンググループ設置等により検討を進める」ということで確認をされてございます。

2行目にごございます「県・市町村が連携して進める」ということにつきましては、現在、長野県自治振興組合の体制強化についても議論が進められているというように承知をして

いるところをごさいますて、改めましてそのような情報提供なり動きがあろうかと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思ひてごさいます。

それから、2番目の「報告事項については、次のとおり対応する」ですが、私もうっかりしておひまして、これで何のことか分かりませんが、実は、自治体の広域連携に関する検討ということで既に着手をひていることについてはご案内のとおりでごさいます。

1つにつきましては、上のDX戦略の推進に絡むものでごさいますて、デジタル化の関係ということでごさいまするが、先端技術の活用ということで、記載にごさいます先端技術活用推進協議会と連携し、具体的な連携方策の検討をひってひく内容となつてごさいます。

また、もう1つは、水道事業の広域化というテーマがごさいますて、これは、この後でごさいまするが、県の公営企業管理者が参りまするので、直接、皆様方へ情報提供、ご説明をさせていただきたひたいということでごさいます。その時間を取らせていただひてごさいまするので、質疑がごさいますたらよろしくお願ひ申し上げたいと思ひてごさいます。

資料7につきましては、以上とさせていただきたひたいと思ひます。

続きますて、資料8でごさいます。

令和3年度の市長会開催予定でごさいます。上半期分で少しご説明をさせていただきたひたいと思ひてごさいます。

まず、来年の4月でごさいます。第148回総会を自治会館で開催しますが、これは4月15日を予定してごさいます。

それから5月に入りまして、北信越の欄をご覧いただきたひたいわけでごさいまするが、5月13日、14日と第178回総会を伊那市さんで開催させていただきたひたいものでごさいます。伊那市さんには大変にお世話になるわけでごさいまするが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

経過を若干申し上げますと、実は、ご案内のとおり十日町市で開催されました総会以来、2回連続して具体的な会議が開催されておひりません。従ひまして、伊那市の担当の皆さん方は、全然この先進地視察ができない状況で来年は臨まなければいけないという非常に厳しい状況でもごさいます。そのような中で、今、伊那市さんにご努力いただひてごさいます。何とぞ、その辺につきましてもご協力いただきたひたいと考えているところでごさいます。

6月に入りまして、6月9日に記載が「全国」の所にごさいますように全国市長会議がごさいます。その前日、恒例によりまして定例会を東京で開催するものでごさいます。

それから、7月に副市長会議が予定されておひります。佐久市さんには大変にお世話になります。よろしくお願ひいたします。

8月19日でごさいまするが、第149回の総会が飯田市さんで開催する運びとなります。どうぞ飯田市さんには、よろしくお願ひ申し上げます。

以上、前半分をご説明させていただきたひたいました。まだ日程等が明らかになつておひない部分もごさいます。逐次、情報が入り次第、また決まり次第、お伝えをひてまいりたいと思ひておひります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以上4点を一括して報告事項をご説明申し上げます。よろしくお願ひ申し上げます。

(加藤会長)

はい、どうもありがとうございます。

ただ今の事務局長の説明に対しまして皆さんからご意見、ご質問がございましたらお願いしたいと思います。

(「なし」の声あり)

(加藤会長)

よろしいですか。

それでは、特段ないようでございますので、本件につきましては了承いただいたものと思います。

以上で報告事項を終わりたいと思います。

(4) 県からの施策説明

ア しあわせ信州”住まい方”ビジョン2030(案)について

(加藤会長)

「県からの施策説明」に入りたいと思います。

はじめに「しあわせ信州”住まい方”ビジョン2030(案)について」を建築住宅課の小林課長からご説明いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(小林建築住宅課長)

長野県建設部建設住宅課の小林でございます。よろしく申し上げます。着座で失礼いたします。

それでは、資料9をご覧ください。「しあわせ信州”住まい方”ビジョン2030」につきましてご説明をさせていただきます。

最初にビジョン2030の位置づけにつきましてご説明をいたします。

冒頭にしあわせ信州プラン2.0がございます。その下でございますが、長野県住生活基本計画、こちらは県の建築住宅施策のマスタープランということでございまして、平成28年に策定をしまして、10年計画で5年ごとの見直しでございます。次回見直しにつきましては、今年度末に策定されます国の全国計画を受けまして、令和3年度に見直し予定でございます。

この“住まい方”ビジョンでございますが、県の総合計画であります「しあわせ信州創造プラン2.0」や「気候危機突破方針」など、関係計画が目指す姿と社会環境等の変化に照らし、これからの時代に求められるハードとしての住まいだけではなく、そこで営まれる暮らしも含めまして、住まい方として、理念、基本的な視点につきまして次期住生活基

本計画策定に先立ちまして整理したものでございます。

本ビジョンは、次期住生活基本計画に反映されるほか、令和3年度県予算に反映できるものにつきましては先行して施策化を図っていくものでございます。

これまでの検討過程でございますが、長野県住宅審議会に信州大学の武者忠彦准教授を委員長とします専門委員会を設置しまして、これまでに6回の委員会、2回のワークショップ、それと県政モニターによるアンケート調査の実施を経まして意見集約を図ったものでございます。

内容につきましてご説明をさせていただきます。A3の資料をご覧ください。

左上でございますが「住まいを取巻く環境の変化」ということで3つの変化にまとめてございます。住まいを取巻く環境変化は、社会環境の変化、自然環境の変化、価値観の多様化でございます。

まず、社会環境の変化でございますが、人口減少、空き家等の変化でございますが、また、家族のあり様の変化ということでございます。これは、これまで大家族、核家族を経まして、現在は単身世帯、高齢者世帯、片親世帯等々ということでコミュニティの最小単位としての家族の姿の変化がございます。

自然環境の変化につきましては、地球温暖化によりまして災害が増加しているという背景がございます。

価値観の多様化につきましては、ライフスタイルの多様化、また、アフターコロナでそれは加速をしているものと考えているところでございます。

これら環境の変化に対応したこれからの時代にふさわしい住まい方とは、ということでございますが、真ん中に丸でお示してございますが、「5つの視点」ということで環境の変化に対応したこれからの時代を豊かに暮らす住まい方の方向性を示す基本的な視点を5つのキーワードで整理をしております。

まず、五感で感じる心地よさ、居心地のよさでございます。

また、その下であります、信州の強みを発揮した信州らしさでございます。信州らしさ、信州の強みを発揮した取組でございます。

また、ライフスタイルの多様化に対応して住まいやまちを「住みこなす」というキーワードを掲げてございます。

また、地域にひらかれた住まい方、情報社会におけるつながりということで「ひらく・つながる」というキーワードに掲げてございます。

最後になりますが、しあわせの価値を人や地域とのつながりに求める新しい価値観ということで「豊かさ、しあわせのパラダイムシフト」というキーワードを掲げてございます。

特に、一番下にありますが、「信州らしさ」とはどういうものかということで、委員会内でかなり議論になりまして、幾つか、左から恵まれた立地環境、それとコミュニティとしては非常に寛容さと言いますか「受け容れ力」という表現しておりますが、人を受け容れる土台があり、それと、営まれてきた豊かな暮らしということで、多種多様な個性を持つ

地域で独自に育まれてきた豊かな暮らしがあります。

これら他県に誇れる信州の強みとして最大限に生かしながら、これまで先達が育んできました社会的資源等を次世代に住み継ぎ、持続可能な地域社会を実現することを目指すということで、一番右上に基本的な理念ということで示してございます。

この理念を実現するための方向性ということで、一番右側になりますが、3つの提案ということでお示しをしております。

まず、1つ目でございますが、環境や健康にやさしく安全な住まいということで、これは、ハードとしての求められる住まいの姿でございます。

この中の2つ目の「ゼロカーボンと健康長寿に資する住まい」、仮称で信州版ゼロエネルギー住宅と後ろにあります、その他、災害ハザードエリアからの回避と強靱な備えのレジリエンスな住まいなど、この1につきましては、ハードとしての住まいの姿ということでまとめさせていただいております。

2つ目は、多様な変化やニーズに対応した住まいの選択ということで、これは、ライフスタイルやライフステージに応じて住み替えていく、ストックの活用のあり方ということで掲げさせていただいております。

こちらにつきましては、住み替えスタイルの定着の促進や良質な住宅の流通市場の環境整備により多様な変化やニーズに対応する住まい、また、アフターコロナの姿としまして、これまで住まいは住むだけであったところが、働く場や学びの場としての社会機能の一部を補完するというような未来像も描いてございます。

また、こちらでシェアハウス等も例で掲げてございますが、多様な世帯が地域で共生できる様々な住まいの形ということで、住まいの多様性につきましても今後は求められるだろうというようにまとめさせていただいております。

最後に3つ目でございますが、地域や社会にひらかれ、つながりささえあう暮らしということで、これは、コミュニティのあり方ということでございます。委員会でかなりの時間を割いて議論されたテーマでございます。

この中で自治会の活動だけでなく、価値観でつながる新しいコミュニティのあり方、また、自宅と仕事場以外の自分の居場所、いわゆるサード・プレイスの必要性、最後に、適度に地域にひらかれた住まいで、ゆるやかに近隣とつながる暮らし方、また、情報社会にあってコミュニティハブや情報でつながり合える地域社会というようなものを掲げてございます。

これらの理念、基本方針に基づきまして、行政、事業者、県民等がそれぞれの役割を担いながら実現を目指していこうというものでございます。

今後でございますが、今回の冒頭でご説明申し上げましたが、住生活基本計画策定に先立ちまして、住まいとそこから織りなす暮らしをテーマに、これからの時代に求められる住まい方を専門委員の鋭い感性で削り出して、理念と視点として形にした作業でございます。

施策の具体化につきましては、来年度の長野県住生活基本計画策定の過程で幅広く市町村の皆様のご意見をお聞きしながら、関係部局との連携を図りながら検討してまいりたいと考えてございます。

なお、ビジョン中の信州版ゼロエネルギー住宅につきましては、速やかに検討を開始したいと考えております。

また、左下になりますが、情報発信でございますが、県民と理念を共有するため、住まい方の実践事例等の情報発信サイトを現在構築中でございます。来年以降につきましては、住まい方の実践事例について市町村様からもアップが可能となる予定でございますので、情報発信の窓口ということでご活用をいただければと考えております。

建築住宅課からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

(加藤会長)

はい、ただ今、小林建築住宅課長さんから説明がございました。これにつきまして皆様からご意見、ご質問がございましたらお願いしたいと思います。

牛越大町市長さん。

(牛越大町市長)

課長さん、ご苦労さまでございます。これからいろいろな社会というか、あるいは地域社会の変化などに対応して新しい住まいの形、住まい方を作っていく、そのような理念を掲げて目指すべき方向はよく分かりましたが、具体的に例えば課長さんのところで所管している建築基準法あるいは建築確認などを通じて個々の県民の皆さんにコミットする方法があるとしたら、どのような手法でこれを実現しようとしているか、そして手法の柱は、これから詰められるとは思いますが、どういうことをイメージしていらっしゃるのでしょうか。

(小林建築住宅課長)

具体的な施策は何か、ということになりますが、こちらにつきましては、来年度策定の県住生活基本計画策定の中で肉付けをしてまいりたいということでございます。

(加藤会長)

では、これから具体化していくということですか。

(小林建築住宅課長)

この中では、例えば先ほど申し上げましたが、信州版ゼロエネルギー住宅などにつきましては、速やかに検討を開始したいと考えているところでございます。

(牛越大町市長)

政策誘導などを通じても行える部分があると思います。一番基本になるものは、多分、建築基準法等に基づく国の基準を満たすだけでなく、それを更に誘導する、そのような考え方でよろしいでしょうか。

(小林建築住宅課長)

そうですね、基準法と言いますと、法的な基準となってしまいますが、委員会の中では、こちらにもありますが、「居心地・心地よさ」ということで、五感で感じる心地よさがこれからは大事だということ、そのような部分は法律では規定ができませんので、そのような五感で感じると言いますか、感性の部分になりますが、居心地のいい信州をアピールできるような今後の住宅施策を、単に法律にあつてたらいいことだけではなくて、そのような視点を前面に出しながら検討してまいりたいと考えております。

(牛越大町市長)

今までは、県も様々な、例えば信州の木を活用するというような方策では助成制度で運用していたと思いますが、大体、そういうことで肉付けということになりますでしょうか。

つまり、補助金などによって法律以上の信州らしさを感じるような住宅政策をしていくというような理解でよろしいですか。

(小林建築住宅課長)

現在は、環境配慮型住宅ということで誘導しているところがございますが、イメージとしますと、左下でございますが、信州らしい住まいのまず指針という形で、住まいづくりの理念を共有できるような指針を策定しまして、それに基づいて現行の補助制度も展開をしながらそのような住宅の普及を加速してまいりたいと考えております。

(牛越大町市長)

はい、では、最後に。そのとおりだと思います。やはり誘導するには、方針を啓発するだけでは、なかなか実現につながらないということで、ぜひ補助制度などを充実するような政策で。そのときに1つ、まずは市町村との連携という観点から、もちろん啓発事業はいくらでも私どもも一緒に取り組まなければいけないのですが、補助制度の中で例えば市町村独自の政策実現のためのものを織り込んでいただいたり、場合によっては市町村がそれに対して並行補助したりするなど、制度の設計においては十分にご協議いただきたいと思っております。

2点目は、先ほどゼロカーボンで健康でエコで居心地のよいというこの中では、やはり高断熱ということもアピールしていただきたいと思っております。高断熱によって健康寿命が延びるという見識もあるようですので、知見を生かしていただきたいと思っております。

以上です。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。

そのほかにございますでしょうか。

それでは、小林建築住宅課長さん、ありがとうございます。

イ 長野県水道事業広域連携推進協議会の設立及び新規電源開発について

(加藤会長)

次に、「長野県水道事業広域連携推進協議会の設立及び新規電源開発について」、小林公営企業管理者さんがお越しになつていますので、ご説明を受けたいと思います。

(小林公営企業管理者)

皆様、こんにちは、公営企業管理者の小林でございます。日頃から企業局の電気、水道事業につきましても、皆様にご協力いただき厚く御礼を申し上げますとともに、本日は、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

着座にて失礼ですが、ご説明をさせていただきます。資料10をご覧ください。

私からは、2点になりますが、ご説明します。

まず、水道事業広域連携推進協議会の設立についてということでございます。この協議会については、3の所に「10月12日」という記載がございますが、新たに設立をさせていただきました。

設立に当たりましては、19市の皆様をはじめ、県内77の市町村あるいは3つの企業団、全ての水道事業者の皆さんにご参画いただいております。本当にありがとうございます。

この目的でございますが、1の所でございますように、全体として、やはり人口減少等によりまして水需要が減少するという中で、水道事業は90パーセントが固定費と言われている装置産業でございますので、経営環境は非常に厳しい状況が続いているということです。

このような中で、そこにあります老朽化する施設の更新や専門人材の確保育成あるいは大規模災害に強い体制づくりというような共通の課題を皆で考えていくことにしています。これは、小規模町村をはじめ、やはり市の皆様においても、1事業者のみで考えていくとおのずと限界がございますので、やはり県内全ての事業者が共に検討しながら前を向いていく、というところを私どもは考えました。

とりわけ、一昨年12月に水道法が改正されまして、基盤強化の中で広域化あるいは広域連携ということも言われておりますので、このような方向性を定めていきたいと考えています。

その中で、2の組織概要にありますように、協議会は先ほど申し上げました全団体に

参加をいただいておりますが、この下に実質的に研究・検討する機関としましてワーキンググループを2つ立ち上げたいと思います。

3にあります、ワーキンググループは、①の「水道情報共有」と②の「人材確保・育成」ということです。

このところで、それぞれの中身が4にごさしまして、今後の取組予定でございます。水道の情報共有は、施設台帳の整備がこの法改正で令和4年9月末までに全団体において行うことになっておりますが、実は、ここにデジタル化した統一様式の施設台帳とありますが、デジタル化された施設台帳そのものをお持ちなのは、2、3割程度というように私もアンケートの中で把握しております、これから取り組むところが大きいのですが、これに当たっては、やはり統一様式でやっていくことが非常に重要であります。当日は厚労省の熊谷水道課長にもお見えいただいて講演いただきましたが、標準化・効率化・共通化が非常に重要です。資料の右の所に要旨の記載があります。まず、これからやる時には、そこを皆さんでそろえていただくことになりまして、その下にありますが、もちろんそれぞれの皆さんがそのようなマネジメント、資産管理したり、見える化したりすることが必要ですが、例えば災害の事例のとき、応援隊が入ったときに、水道施設は山中に水源があり、浄水場があり、配水池があるということで、非常に場所が点在する、そのような場所へ応援部隊が間違いなく速やかに行ければ対応ができますが、これが遅れるとやはり断水等が長引く状況がございますので、ぜひ、そういうことも含めて統一様式で、この統一様式が実は確たるものは全国的にまだない状況ですので「長野モデル」と称しておりますが、今、市町村の皆さんと検討は始めておりまして、これで長野県として統一様式を打ち出せば、厚労省から全国的な統一様式になっていくという可能性は十分あるということで、まず、これをやりたいと思います。

また、担い手ということ言うと、その右にありますように、専門人材と言っていますが、水道事業は、そこにありますように工事の関係、検査の関係あるいは公営企業化されることがありますので、そのような公営企業会計等ができる、このような多様な人材を、やはり特に1人、2人でやる小規模町村をはじめ市の皆さんにおいてもなかなかこれを確保することは厳しい状況でございますので、この確保を皆でやっていって、将来的には、できればプールしてそのような専門人材が困ったとき、例えば大規模改修や、先ほど申し上げました災害等のときにこういうものが県内の人材がいて供給できることは、このコロナ禍あるいは大規模災害で非常に必要だということを再認識しております、そのようなところをやっていきたいと思っております。

これは「推進」と申し上げたのは、とにかくできるところからまずやっていきたいということで、検討で終わらないでとにかくできるところからやりたいということでやらせていただければと思っておりますので、ご協力のほどをお願いしたいと思います。

それからもう1点は、2ページ以降を少し時間の関係でかいつまんで申し上げますが、ゼロカーボンに向けた企業局の取組ということで、企業局は60年間、水力発電所の建設、

管理運営をやってきました。水力発電所は奥地化、小規模化して非常に困難な状況にむしろあります。これを私どものノウハウを生かしながら進めていきますが、進めていくに当たっては、やはり地域の皆さんとともにということで、特に水力発電の利点として下2つにありますように、災害時での地域の電源。これは、マイクログリッドという本格的なものを考えるだけではなくて、外部給電のための非常用コンセント設置などということもやっております。あるいは社会的な整備、長野県の中山間地においては、なかなかそういうものはないのですが、水と落差がある適地であれば水力発電所が可能であるということで、そのような取組をやっています。

3ページの左下の緑の所が建設中、右の上の所が調査中でございますが、良い適地の情報がありましたらお願いしたいと思っております。

4ページ以下は、本年4月から運転開始した辰野町にあります横川蛇石発電所についてです。5ページにありますが、これは「地域連携型水力発電所」と称しているもので、今まで水力発電所は、奥地にぽつんとあるイメージでなかなか地域の皆様とともにということがなかったのですが、このような取組をして地域の皆様と共に水力発電所をやっていくことも今回の新しいコンセプトとしています。その1つの例が6ページのマイクログリッドで、これは、水力発電所が自立運転できるものですから、電線が切れたときに、地域へ電力を供給する。あるいは7ページは、そのような所在市町村の皆さんが行政の高度化を、先端技術を活用してやる場合には一緒にやりたいというようなことで記載してございます。

すみません、かいつまんで恐縮ですが、このような形で水道・電気事業を地域の皆様とともに進めてまいりたいと思っておりますので、今後ご支援ご協力のほどお願いします。

以上でございます。

(加藤会長)

どうもありがとうございました。

ただ今、小林公営企業管理者からご説明いただいたところでございます。

皆さんでこれに対するご質問、ご意見がございましたらお願いしたいと思っております。

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

それでは、小林公営企業管理者さん、ありがとうございました。

(小林公営企業管理者)

どうもありがとうございました。よろしく申し上げます。

(5) その他

(加藤会長)

最後に、(5)の「その他」でございますが、事務局から何かございましょうか。

(青木事務局長)

事務局からはございませんが、各市からございましたらお願いしたいと思います。

(加藤会長)

はい、柳田佐久市長さん。

(柳田佐久市長)

資料をお配りしています。

少し情報提供というような形でお願いさせていただきたいと思います。

私は、ツイッターを頻繁に活用させていただいておりますが、昨日の夕方であります、ZOZOの前澤社長が「8億円の寄付を行います」ということがツイッターで発信されまして、その対象は「自治体の首長の皆様」となっています。この紹介という形で、長野県19市の中でもなかなか良い事業なのだけれども財源を見つけることが難しいというような事業があるかと思えます。早速、小諸市長さんが動物園のリニューアルということでエントリーされていらっしゃいましたが、非常に自由な、何にでも使える財源という見方もできようかと思えますので、ぜひ長野県内の市長さん方にお取り組みをいただけたらいいのではないかと思います。資料を配らせていただいたところでございます。ご検討いただければいいのではないかと考えております。

以上です。

(加藤会長)

どうもありがとうございます。8億円の寄付ということで、これはチャンスでもあるということです。ぜひ、それぞれでまたアイデアを出していただいて8億円の獲得を。これは、皆で割るわけにはいきませんね。1か所ですね。貴重な情報をありがとうございます。

ほかに市長さんから何かございますか。

私から一つご提案と申しますか、11月3日に佐久穂町から飯山市の千曲川沿川12市町で、災害からの復興、また新型コロナ退散、そして医療関係者への感謝を込め、その12市町の30か所で一斉に花火を上げたわけでありまして、あちらこちらで花火が上がることは珍しい例でございます、このような時期でございますので、皆さんからはお褒めいただいたところでございます。

その中でふと思ったのですが、77市町村で11月3日に一斉に、6時半から5分、10分でいいのですが、また花火を上げて、長野県へ来ればどこへ行っても11月3日の夜は花火が上がる。それも、あちらこちらから上がるというようなものをして、ある面では皆さんへの元気づけ、そしてまた、今、花火の業者も大変な困窮状態に陥っておるわけでござい

まして、そういうものも含めて、地域の活性化も踏まえて考えてやるというような形で考えておるわけでございます。

長野市では、10か所のうち7か所が商工会議所と商工会、3か所は青年会議所が各グラウンド等で上げたわけでございます。それほど莫大なお金を掛けて派手にやるわけではないのですが、5分か10分、あちらこちらで花火が上がることは、非常に皆さんに感動したというご意見をいただいたというお話もあちらこちらからいただいたわけでございますので、できればそのようなご提案を申し上げたいと思いますが、いかがでしょうか。

柳田佐久市長さん。

(柳田佐久市長)

長野市長さんからお電話をいただきまして、11月3日に参加させていただいたところでございます。私ども佐久市におきましては、5か所で花火を打ち上げました。それぞれの会場でいつもやっているような花火大会のようなどても激しいスターマインということではなかったのです。しかしながら、災害が起きた地域で自分たちの近くの小学校のグラウンドから上がるという初めて見る光景が市民の皆様には驚きと同時に感動があったと思いますし、寄せられてきているところです。

今回、この1年間に台風があって、そして本当に全世界的な感染症が猛威を振るっている中において数少ない明るいニュースだったのではないかと思います。

今後、規模の多寡はそれぞれのご事情によると思いますが、こういうことで災害があった場所、見たことがない場所で打ち上げる姿、市内各所で打ち上がることに本当に皆さんが感動されたのではないかと思います。それぞれのご事情はあると思いますが、ぜひ、そのような企画に参加をさせていただければと思いますし、議論に参加させていただいて前向きに対応させていただきたいと思っています。

(加藤会長)

どうもありがとうございます。

これは、あくまでも官製で上げるということではなくて、地元の商店、また、商工会、青年会議所等の皆さんが主体となっているところに私どもも一緒にしていくということでございます。今回の場合は、県からもご支援をいただいたということでございます。ぜひ県にもまたお願いをして、長野県の1つの元気を作っていくという中でできれば思っております、いかがでしょうか。皆さんの賛同をいただければと。町村にも少し、お話をさせていただいていて、それぞれのご賛同をいただいたところでございます。

それでは、ぜひ、皆さんの拍手をもってご賛同いただければと思います。

(拍手)

(加藤会長)

それでは、大変恐縮でございますが、また改めて様々なご提案等をご連絡させていただきたいと思っております。

ほかにございますでしょうか。

なければ、以上で11月定例会の議事を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

5 開 会

(前島事務局次長)

ありがとうございました。以上で11月定例会を閉会いたします。お疲れさまでございました。